

◆授業のポイント◆

- ・ 到達目標の明確化と指導方法・練習方法の工夫・改善
- ・ 学習カードやステップシートの工夫

音楽科学習指導案

学 級 3年1組 (男子22名女子19名計41名)
場 所 第2音楽室 (1年棟4階)
授業者 教 諭 永 井 ひろみ

1 題材 合唱の表現を楽しもう

教材 「Tomorrow」 杉本竜一 作詞・作曲・編曲

2 題材について

- (1) 歌は音楽の原点であり、いつの時代も人の集うところには歌があった。歌はさまざまな音楽へと発展し、だれもがもつ歌心があったからこそ、人々は様々な音楽を共有できた。一方、中学の音楽の学習においては、表現活動や鑑賞活動を重ねることで、生徒一人一人の感性が育ち、このように表現したい・このような表現が好きなど音楽の趣向が、様々な感性の覚醒に生かされている。

本教材「Tomorrow」は杉本竜一作詞・作曲・編曲、へ長調、4分の4拍子、同声二部合唱の曲であり、NHK『生きもの地球紀行』のエンディング曲として1992年発表された。生きることの喜びと未来への希望を明るい旋律にのせて歌ったメッセージソングである。

本校3年生は、音楽の授業をはじめ、音楽コンクールや文化祭等で合唱活動を経験し、さらに今年3月の卒業式出席により歌を通して仲間と音楽を創り上げる喜びを共感することで、一層合唱への関心の高まりを感じている。

合唱は、ややもするとリズムや音程をとることができたら仕上がったと感じているところが見られ、楽曲について深く考えたり、歌詞の意味や、歌詞に込められたメッセージを伝えるように歌ったりするなど、試行錯誤をくり返し練り上げていくことの楽しさを味わうところが稀薄になりがちである。

音楽は、音楽を形づくっている要素（音色、リズム、速度、旋律、テクスチャ、強弱、形式、構成など）と、雰囲気、曲想、美しさ、豊かさといったその音楽固有の情意的側面が、互いに関わり合って成立している。諸要素が楽曲の情意的側面と深く関わっていることに気付かせることが重要であり、生徒はそのことによって楽曲の内容をより深くイメージすることで、表現を工夫していくことに繋がると考える。つまり、音楽を形づくっている要素を理解し、それらと音楽の情意的側面との関わりを感じ取る能力を育てることが、表現を工夫するための技能を高めていくといえる。そこで、音楽の諸要素を理解し、それらと歌詞の関わりを感じ取らせながら楽曲にあった表現を工夫させ、自らの考えで工夫し、自分の意図を言葉で表し、それを音によって表現する活動を通し歌唱（合唱）表現の楽しさを味わわせることをねらいとし本題材を設定した。

- (2) 生徒の実態（アンケート対象：3年1組 男子22名 女子19名 計41名 回答）
今回の学習に取り組むにあたって、前調査を実施した。

1. 合唱活動は好きですか。

好き（7人） どちらかといえば好き（21人） どちらかといえば嫌い（11人）
 嫌い（2人）

2. [1] で答えた理由

○ 「好き」「どちらかといえば好き」と答えた人

- | | |
|-------------------|------------------------|
| ・みんなで練習するのが好き | ・みんなで楽しめるから |
| ・みんなで合唱できたらうれしいから | ・歌うと楽しい ・合唱が好き |
| ・活動が楽しい | ・リズムに合わせるのが難しいからおもしろい。 |

● 「どちらかといえば嫌い」「嫌い」と答えた人

- | | |
|---------------------------|--------------|
| ・歌うことがあまり好きでない | |
| ・あまり得意ではない、自信がない、きれいな声がない | ・高い音をとるのが難しい |
| ・歌がうまくないから | ・あまり楽しく感じない |

3. 合唱で難しいと感じる点を挙げてください。

- | | | | |
|-----------|----------|----------|-----------------|
| ・ハーモニー | ・音程をとること | ・合わせること | ・声をそろえること |
| ・うまく声が出ない | ・高音が出ない | ・息のタイミング | ・他のパートとのバランス |
| ・リズムをとる | ・休符のとりかた | ・のぼし | ・強弱をつける ・低い声 |

4. 歌うとき、どんなことに気をつけていますか。（複数回答）

- | | | | |
|-----------|----------|------------|----------|
| ・リズム（27名） | ・強弱（21名） | ・音程（15名） | ・速度（8名） |
| ・姿勢（6名） | ・拍子（6名） | ・響き（5名） | ・諸記号（3名） |
| ・口形（3名） | ・表情（2名） | ・作者の想い（1名） | ・歌詞（1名） |

アンケートの結果から、歌うこと（合唱活動）は「好き」あるいは「どちらかといえば好き」と答えた生徒は全体の約69%を占めている。理由として、「みんなで練習するのが好き」「みんなで楽しめるから」「みんなで合唱できたらうれしいから」があげられ、仲間と協力しながら音を創り上げる音楽活動に喜び感じている様子が見うけられる。しかし、歌うことに自信がもてない生徒が、合唱を楽しめない面も見られる。苦手意識を少しでも払拭できるよう、授業で合唱する喜びの体験を多く味わわせ、生徒の自信と意欲を育てられるよう配慮していきたい。

生徒が歌う時に気をつけていることとして「リズム・強弱・音程」の回答が多い。しっかりと楽譜に書かれている基礎的な技能を意識して歌唱活動に取り組んでいることがわかる。しかし、「作者の想い・歌詞」については意識の低いところも見られ、この題材を通して「作者の想い・歌詞」からも曲にふさわしい表現を見つける方法を学ばせたい。

以上のことから、単に歌うだけでなく、曲にふさわしい表現するためにどのような工夫をすればよいか、互いに感じたことを話し合いながら意欲的に取り組ませ、一人一人の生徒が表現の技能を高められるように指導を図っていきたい。

本校は曲にふさわしい表現をするため、「表現のための虎の巻」の活用をしている。さらに、楽譜に示されている様々な要素を、どのように表現を工夫するか、具体的な言葉の「譬え」を活用して、生徒の言葉で表現させることによって思考力を高め、表現力の向上につなげられるように行っている。

3 題材の目標

(1) 歌詞に込められた心情、旋律のまとまり、強弱に関心を持ち、曲にふさわしい歌唱表現に意欲

的に取り組むことができる。

- (2) 歌詞に込められた心情、旋律のまとまり、強弱について曲にふさわしい表現を工夫し、表現したい思いや意図を言葉で表し、それを音で伝えることができる。
- (3) 歌詞に込められた心情やイメージを大切に、その曲想を生かすための強弱変化や旋律の抑揚やまとまりを生かした表現することができる。
- (4) 曲の構成や声部の役割を理解し、合唱による響きを聴き合うことができる。

4 指導計画（全4時間）・〔単位時間における評価規準〕

時	主な学習活動	教師の働きかけ	単位時間における評価規準		
			ア 音楽への関心・意欲・態度	イ 音楽表現の創意工夫	ウ 音楽表現の技能
1	<ul style="list-style-type: none"> 曲の構成を理解し、音取り（パート）をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 明瞭に発音するなど歌い方の工夫について確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 曲に関心を持ち、音取りに主体的に取り組もうとしている。 		
2	<ul style="list-style-type: none"> 曲の構成を確認しながら、歌詞に込められた思いをイメージし、A・Bの表現を考え、工夫して歌う。 	<ul style="list-style-type: none"> 旋律の特徴を感じ取り、歌詞に込められた思いを、音楽表現に、工夫させる。 		<ul style="list-style-type: none"> 曲にふさわしい音楽表現を工夫し、どのように歌うかについて思いや意図をもっている。 	
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> 旋律のまとまりや強弱記号、Cの歌詞に込められた思いを手がかりに表現を工夫して歌う。 各班の練習内容を説明し、発表する。 	<ul style="list-style-type: none"> フレーズの流れを感じ取り、歌詞に込められた思いを音楽表現に工夫させる。 		<ul style="list-style-type: none"> 意図をもって、音楽表現を工夫するための譬えを出し合っている。 	
4	<ul style="list-style-type: none"> まとめの合唱をする 	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな響きで、歌い方の工夫を確認させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 音楽表現を工夫しながら歌う学習に主体的に取り組もうとしている。 		<ul style="list-style-type: none"> 全体の響きを生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けている。

5 本時の実際（3／4）

(1) 目標 曲から感じたイメージを確認し、曲にふさわしい表現を工夫して歌うことができる。

(2) 授業づくりの視点

ア 到達目標の明確化と指導方法・練習方法の工夫・改善

表現しようとするイメージや思いを、到達目標として設定し、主体的に取り組めるようにするために、「譬え」を多く提示し参考にさせる。

イ 学習カードやステップシートの工夫

学習効果を高めるために、学習カード、ステップシートの工夫を行う。また、「表現のための虎の巻」を用いて、生徒が楽曲から感受したイメージを言葉で説明し、表現の工夫をさせる。

(3) 展 開

過程	時間形態	主 な 学 習 活 動	指導上の留意点 ◎ 評 価 ※授業のポイントの工夫
導 入	5分 一斉 一斉	1 前時の学習内容を振り返り、「T o m o r r o w」の録音を聴く。 2 本時の目標を確認する。 曲から感じたイメージを確認し、曲にふさわしい表現を工夫して歌おう。	○ 前時の学習内容を確認させる。 ○ A・Bの部分のイメージを確認する。 ◎ 前時の学習を振り返り、どのように表現を工夫をしたか考えながら聴こうとしている。 ○ 本時の目標と学習の流れについて提示し、見通しをもたせる。
展 開	3分 一斉 2 2分 班 1 5分 班	3 Cの部分のイメージを確認する。 4 グループごとに、表現の工夫を話し合い、練習を行う。 5 イメージをもとに、各班の練習内容を説明し、発表する。 6 各班の発表を聴き、表現の工夫が できているかを確認をする。	○ 旋律のまとまりや強弱記号、歌詞に込められた思いを手がかりに、どのように歌いたいかを確認させる。 ※ 表現しようとするイメージや思いを、到達目標として設定し、主体的に取り組めるようにする。 ◎ 歌詞に込められた思いや旋律のまとまり、強弱記号を手がかりに表現に生かそうとしている。 ○ 「譬え」を用いながら、具体的な表現につながるようにさせる。 ※ 「表現のための虎の巻」を用いて、表現したいイメージを言葉で説明し、表現の工夫につながるようにする。 ◎ 思いや意図をもって表現する技能を身に付けようとしている。 ○ 「譬え」を用いながら、音楽の要素の働かせ方を試行錯誤し、曲にふさわしい表現の方法を見いだしていることに気づかせる。 ○ 取り組んだことを生かして歌うように意識させる。 ◎ 思いや意図をもって歌っている。 ○ 各班の工夫した点に注目させながら聴かせる。 ◎ 表現の工夫ができているか、確認している。
終 末	5分 一斉 個人	7 本時の振り返りと次時の目標を設定する。 8 次時の予告を聞く。	○ 本時のまとめと次時の目標をステップシートに記入させる。 ○ 生徒の活動や変容を認め、次時の学習につなげる。

(4) 評 価 曲から感じたイメージを確認し、曲にふさわしい表現を工夫して歌えたか。